

# 定 期 作 況 報 告

令和7年11月  
(11月20日現在)



道総研

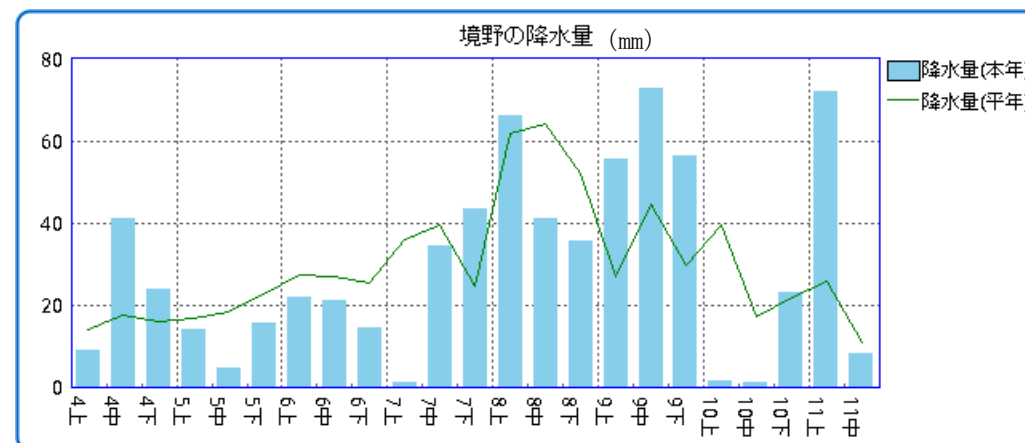
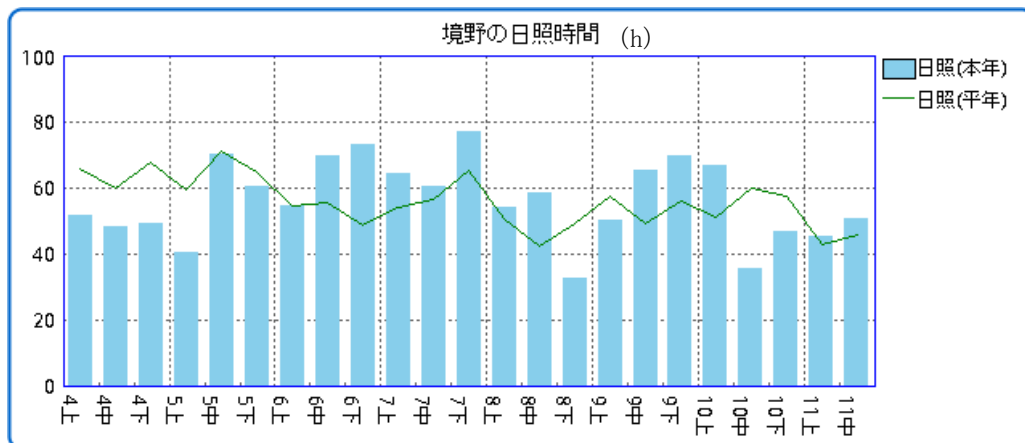
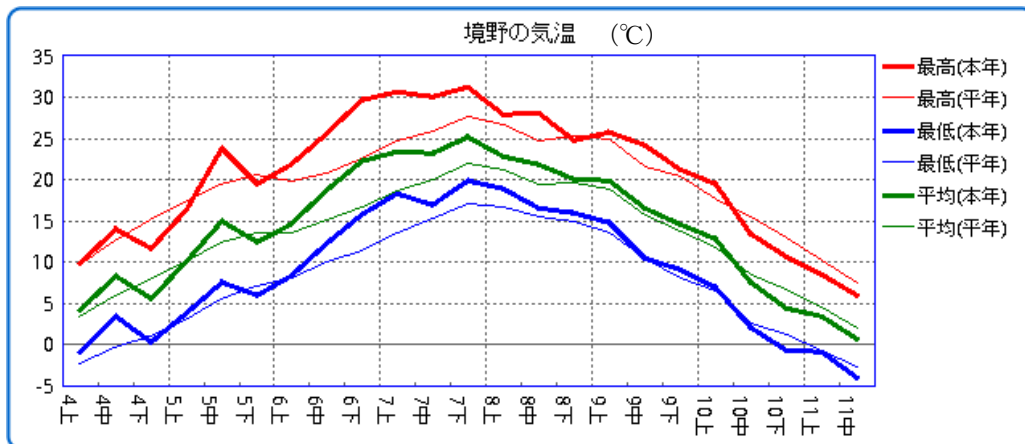
北見農業試験場

# 1. 気象経過

## 1) 4月以降の経過

- 4月上旬：** 最高気温は平年並で、最低気温、平均気温はやや高かった。降水量は平年よりやや少なく（平年比65%）、日照時間はやや少なかった（平年比79%）。
- 4月中旬：** 最高気温はやや高く、最低気温は極めて高く、平均気温は高かった。降水量は平年より極めて多く（平年比233%）、日照時間は平年並であった（平年比81%）。
- 4月下旬：** 最高気温は極めて低く、最低気温はやや低く、平均気温は低かった。降水量は平年より多く（平年比152%）、日照時間はやや少なかった（平年比73%）。
- 5月上旬：** 最高気温はやや低く、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。降水量は平年並（平年比84%）、日照時間はやや少なかった（平年比68%）。
- 5月中旬：** 最高気温は極めて高く、最低気温は高く、平均気温は極めて高かった。降水量は少なく（平年比24%）、日照時間は平年並であった（平年比99%）。
- 5月下旬：** 平均気温はやや低く、最高気温はやや低く、最低気温はやや低かった。降水量は平年よりやや少なく（平年比69%）、日照時間は平年並であった（平年比94%）。
- 6月上旬：** 平均気温はやや高く、最高気温は高く、最低気温は平年並であった。降水量は平年並であり（平年比81%）、日照時間は平年並であった（平年比100%）。
- 6月中旬：** 平均気温は極めて高く、最高気温は高く、最低気温は極めて高かった。降水量は平年よりやや少なく（平年比78%）、日照時間はやや多かった（平年比126%）。
- 6月下旬：** 平均気温は極めて高く、最高気温は極めて高く、最低気温は極めて高かった。降水量は平年より少なく（平年比58%）、日照時間は多かった（平年比150%）。
- 7月上旬：** 平均気温は極めて高く、最高気温は極めて高く、最低気温は極めて高かった。降水量は平年より少なく（平年比3%）、日照時間は平年並であった（平年比119%）。
- 7月中旬：** 平均気温は極めて高く、最高気温は極めて高く、最低気温は高かった。降水量は平年並で（平年比87%）、日照時間は平年並であった（平年比108%）。
- 7月下旬：** 平均気温は極めて高く、最高気温は極めて高く、最低気温は極めて高かった。降水量は平年より多く（平年比177%）、日照時間は平年並であった（平年比118%）。
- 8月上旬：** 平均気温は高く、最高気温はやや高く、最低気温は高かった。降水量は平年並であり（平年比107%）、日照時間は平年並であった（平年比107%）。
- 8月中旬：** 平均気温は高く、最高気温は極めて高く、最低気温はやや高かった。降水量は平年よりやや少なく（平年比64%）、日照時間はやや多かった（平年比137%）。
- 8月下旬：** 平均気温は平年並みで、最高気温は平年並みで、最低気温はやや高かった。降水量は平年よりやや少なく（平年比68%）、日照時間はやや少なかった（平年比66%）。
- 9月上旬：** 平均気温はやや高く、最高気温はやや高く、最低気温はやや高かった。降水量は平年より極めて多く（平年比208%）、日照時間は平年並みであった（平年比87%）。
- 9月中旬：** 平均気温はやや高く、最高気温は極めて高く、最低気温は平年並みだった。降水量は平年より多く（平年比164%）、日照時間はやや多かった（平年比134%）。
- 9月下旬：** 平均気温はやや高く、最高気温はやや高く、最低気温はやや高かった。降水量は平年より多く（平年比190%）、日照時間はやや多かった（平年比125%）。
- 10月上旬：** 平均気温はやや高く、最高気温は高く、最低気温は平年並みであった。降水量は平年より少なく（平年比4%）、日照時間はやや多かった（平年比131%）。
- 10月中旬：** 平均気温はやや低く、最高気温は低く、最低気温は平年並みであった。降水量は平年より少なく（平年比6%）、日照時間はやや少なかった（平年比60%）。
- 10月下旬：** 平均気温、最高気温、最低気温は低かった。降水量は平年並で、日照時間は平年並であった。
- 11月上旬：** 平均気温は平年よりやや低く、最高気温は低く、最低気温は平年並であった。降水量は極めて多く、平年並であった。
- 11月中旬：** 平均気温はやや低く、最高気温は低く、最低気温はやや低かった。降水量はやや少なく、日照時間は平年並であった。

## 2) 気温、降水量および日照時間の平年との比較



3) 気象表

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
2025年	上旬	4.1	3.3	0.8	9.8	9.6	0.2	-1.0	-2.4	1.4	9.0	13.8	-4.8	51.7	65.7	-14.0
4月	中旬	8.2	5.8	2.4	14.0	12.5	1.5	3.4	-0.3	3.7	41.0	17.6	23.4	48.5	60.2	-11.7
	下旬	5.6	7.9	-2.3	11.6	15.1	-3.5	0.3	1.0	-0.7	24.0	15.8	8.2	49.5	67.8	-18.3
	上旬	10.0	10.0	0.0	16.4	17.2	-0.8	3.8	3.0	0.8	14.0	16.7	-2.7	40.4	59.8	-19.4
5月	中旬	15.0	12.3	2.7	23.7	19.5	4.2	7.5	5.4	2.1	4.5	18.4	-13.9	70.6	71.5	-0.9
	下旬	12.4	13.6	-1.2	19.4	20.5	-1.1	5.9	7.0	-1.1	15.5	22.5	-7.0	60.8	64.8	-4.0
	上旬	14.5	13.6	0.9	21.9	19.8	2.1	8.2	8.0	0.2	22.0	27.3	-5.3	54.7	54.5	0.2
6月	中旬	18.7	15.1	3.6	25.6	20.8	4.8	12.3	10.0	2.3	21.0	27.0	-6.0	70.1	55.8	14.3
	下旬	22.3	16.6	5.7	29.7	22.5	7.2	15.7	11.4	4.3	14.5	25.2	-10.7	73.2	48.9	24.3
	上旬	23.4	18.6	4.8	30.7	24.7	6.0	18.3	13.5	4.8	1.0	35.9	-34.9	64.4	54.3	10.1
7月	中旬	23.1	20.0	3.1	30.1	25.9	4.2	17.0	15.2	1.8	34.5	39.5	-5.0	60.8	56.4	4.4
	下旬	25.1	21.9	3.2	31.3	27.7	3.6	19.9	17.0	2.9	43.5	24.6	18.9	77.1	65.5	11.6
	上旬	22.8	21.2	1.6	27.9	26.7	1.2	18.9	16.6	2.3	66.0	61.7	4.3	54.1	50.7	3.4
8月	中旬	21.8	19.5	2.3	28.1	24.8	3.3	16.6	15.4	1.2	41.0	64.2	-23.2	58.5	42.6	15.9
	下旬	20.1	19.6	0.5	24.7	25.2	-0.5	15.9	15.0	0.9	35.5	52.0	-16.5	32.6	49.3	-16.7
	上旬	19.8	18.8	1.0	25.7	25.0	0.7	14.8	13.5	1.3	55.5	26.7	28.8	50.3	57.5	-7.2
9月	中旬	16.5	15.6	0.9	24.2	21.5	2.7	10.4	10.4	0.0	73.0	44.5	28.5	65.8	49.1	16.7
	下旬	14.5	13.8	0.7	21.3	20.3	1.0	9.1	8.1	1.0	56.5	29.7	26.8	70.0	56.0	14.0
	上旬	12.8	11.7	1.1	19.5	17.6	1.9	6.9	6.4	0.5	1.5	39.6	-38.1	66.9	51.0	15.9
10月	中旬	7.5	8.5	-1.0	13.3	15.5	-2.2	2.0	2.5	-0.5	1.0	17.1	-16.1	35.7	60.0	-24.3
	下旬	4.3	6.7	-2.4	10.7	12.9	-2.2	-0.8	1.2	-2.0	23.0	21.8	1.2	47.1	57.7	-10.6
	上旬	3.3	4.5	-1.2	8.5	10.1	-1.6	-1.0	-0.8	-0.2	72.0	25.7	46.3	45.3	42.8	2.5
11月	中旬	0.6	2.0	-1.4	5.9	7.5	-1.6	-4.1	-2.7	-1.4	8.0	10.9	-2.9	51.0	45.8	5.2

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初 霜 (年. 月. 日)	根 雪 始 (年. 月. 日)	通常の根雪終 (年. 月. 日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年. 月. 日)	耕鋤始 (年. 月. 日)	晩霜 (年. 月. 日)	初 霜 (年. 月. 日)	無霜期間 (日)	降 雪 始 (年. 月. 日)
本年	2024.10.14	2024.12.22	2025.4.7	107	2025.4.29	2025.4.22	2025.5.1	2025.10.11	162	2025.10.28
平年	10.14	12.12	4.4	114	4.26	4.21	5.12	10.13	153	11.4
比較	0	10	3	-7	3	1	-11	-2	9	-7

項目	期間	平均気温	日照時間	降水量
		(℃)	(hr)	(mm)
5月上旬 ～ 9月下旬	本年	2,858.4	903.4	498.0
	10年平均	2,555.2	836.7	515.9
	比較	303.2	66.7	△ 17.9

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。  
平年値は前10カ年の平均値である。

付表1 各作物の耕種概要

作物名	一区面積 (m <sup>2</sup> )	反復	前作物	畦幅 (cm)	株間 (cm)	一株 本数	播種粒数 (粒/m <sup>2</sup> )	播種量 (kg/10a)	株数 (株/10a)
1. 秋まき小麦	5.4	4	ひまわり	20	ドリル	—	255	—	—
2. 春まき小麦	6.0	4	緑肥大豆	30	条播	—	340	—	—
3. とうもろこし	11.2	3	緑肥えん麦	75	17.8	1	—	—	7,491
4. 大 豆	9.6	3	緑肥そば	60	20	2	—	—	8,333
5. 小 豆	9.6	3	緑肥そば	60	20	2	—	—	8,333
6. 菜 豆	9.6	3	緑肥そば	60	20	2	—	—	8,333
7. ばれいしょ	37.8	3	緑肥えん麦	75	30	1	—	—	4,444
8. てんさい	39.6	3	緑肥野生えん麦	60	23.8	1	—	—	7,003
9. 牧 草 (チモシー)	2.7	4	緑肥えん麦	30	条播	—	—	2.0	—

付表2 各作物の耕種概要

作物名	施肥量 (kg/10a)						備考
	N	P2O5	K2O	MgO	堆肥	その他	
1. 秋まき小麦	5.6	17.5	7.0	3.5	—	起生期追肥 N : 5.0	2年目草地 年間3回分施
2. 春まき小麦	10.0	18.0	12.0	5.0	—		
3. とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0	3,000	炭カル : 150	
4. 大 豆	1.8	15.0	7.8	3.0	—		
5. 小 豆	4.0	20.0	11.2	4.0	—		
6. 菜 豆	4.0	20.0	11.2	4.0	—		
7. ばれいしょ	8.0	20.0	14.0	5.0	—		
8. てんさい	15.0	30.0	12.3	6.8	—		
9. 牧 草 (チモシー)	15.0	15.0	15.0	3.0	—	〔 造成時 炭カル : 200 ダブリン : 30 〕	

## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（令和6年9月播種） 作 況：やや良

月	作況	事由
11月20日	やや良	播種期は平年より2日早い9月19日であった。出芽期は平年より2日早い9月27日であった。出芽期以降、平均気温が10月上旬から中旬は平年よりやや高く、10月下旬が極めて高く経過したため、越冬前の草丈は平年より高く、茎数は平年より多かった。根雪始は平年より10日遅い12月22日、根雪終は平年より4日遅い4月7日で、根雪期間は平年より7日短かった。作況の調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期は3月23日であった。雪腐病の発生は僅かに認められた。コムギ縞萎縮病が発生し萎縮症状が認められたが、融雪後の平均気温が平年に比べ4月中旬が高く、5月中旬が極めて高く経過したため、出穂期は平年より2日早い6月5日であった。6月下旬から7月中旬の気温は極めて高く推移したため、登熟は平年より早く進み、成熟期は平年より7日早い7月15日で、登熟期間は平年より5日短かった。稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並み、穂数は平年より多かった。穂数が平年より多かったこと、6月下旬から7月中旬の日照時間が長かったことにより、子実重は平年比108%だったが、千粒重はかなり軽かった。リットル重は平年並だった。検査等級は1等であった。これらのことから、本年の作況は「やや良」である。

### 生育データ

品種名		きたほなみ		
項目／年次		本年	平年	比較
播種期	(令和6年月. 日)	9. 19	9. 21	△ 2
出芽期	(令和6年月. 日)	9. 27	9. 29	△ 2
出穂期	(令和7年月. 日)	6. 05	6. 07	△ 2
成熟期	(令和7年月. 日)	7. 15	7. 22	△ 7
草丈 (cm)	(令和6年11月20日)	22. 0	15. 7	6. 3
	(令和7年5月20日)	42. 0	38. 0	4. 0
	(令和7年6月20日)	73. 6	81. 0	△ 7. 4
茎数 (本/㎡)	(令和6年11月20日)	1959	1164	795
	(令和7年5月20日)	2276	1516	760
	(令和7年6月20日)	974	805	169
成熟期	稈長 (cm)	81	76	5
	穂長 (cm)	7. 6	8. 1	△ 0. 5
	穂数 (本/㎡)	841	732	109
子実重 (kg/10a)		717	663	54
同上平年比 (%)		108	100	8
リットル重 (g)		777	782	△ 5
千粒重 (g)		34. 4	38. 3	△ 3. 9
品質 (検査等級)		1	1	－

注) 平年値は前7か年中、令和元年(最豊)、令和4年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 秋まき小麦（令和7年9月播種） 作 況：不良

月	作況	事由
令和7年 11月20日	不良	9月の降水量が平年よりも多かったため、圃場作業が遅れ、播種期は平年より11日遅い10月1日であった。出芽期は平年より11日遅い10月8日であった。出芽期以降、平均気温が10月中旬は平年よりやや低く、10月下旬は低く経過したこと、播種期が遅くなったことにより、越冬前の草丈は平年より低く、茎数は平年より少なかった。 以上のことから、目下の作況は「不良」である。

生育データ

品種名		きたほなみ		
項目／年次		本年	平年	比較
播種期	(令和7年月. 日)	10. 01	9. 20	11
出芽期	(令和7年月. 日)	10. 08	9. 27	11
出穂期	(令和8年月. 日)		6. 07	
成熟期	(令和8年月. 日)		7. 19	
草丈 (cm)	(令和7年11月20日)	12. 0	17. 9	△ 5. 9
	(令和8年5月20日)		39. 3	
	(令和8年6月20日)		79. 1	
茎数 (本/㎡)	(令和7年11月20日)	353	1455	△ 1102
	(令和8年5月20日)		1748	
	(令和8年6月20日)		879	
成熟期	稈長 (cm)		77	
	穂長 (cm)		8. 0	
	穂数 (本/㎡)		784	
子実重 (kg/10a)			681	
同上平年比 (%)			100	
ブラウエル容積重 (g /L)			816	
千粒重 (g)			36. 9	
品質 (検査等級)			1	

注) 平年値は前7か年中、令和元年(最豊)、令和4年(最凶)を除く5か年の平均。

3) 春まき小麦 作 況：平年並

月	作況	事由
11月20日	平年並	<p>調査圃場は融雪剤散布により3月23日に融雪期となった。播種時期の断続的な降雨により、播種期は平年より8日遅い4月23日となった。播種期が遅く、4月下旬の平均気温が低かったため、平年値より出芽期は8～9日遅かった。出穂期は2日遅かった。平年と比較して稈長、穂長は並、穂数は「はるきらり」で多かった。</p> <p>7/14の強風および7/19～20の降雨により、倒伏が多発生した。赤かび病の発生は見られなかった。6月下旬～7月下旬の平均気温が極めて高く推移し、6月下旬～7月上旬は降水量が平年より少なかったため、成熟期は平年より10～12日早く、登熟期間は平年より12～14日短かった。一方、6月下旬～7月下旬の日照時間は、108～150%であったため、子実重は平年比98～102%で平年並であった。千粒重は平年を大きく下回った。容積重は平年並であった。検査等級は1等であった。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「平年並」である。</p>

作況データ

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月. 日)	4. 23	4. 15	8	4. 23	4. 15	8	
出芽期 (月. 日)	5. 7	4. 28	9	5. 8	4. 30	8	
出穂期 (月. 日)	6. 21	6. 19	2	6. 20	6. 18	2	
成熟期 (月. 日)	7. 24	8. 3	△ 10	7. 25	8. 6	△ 12	
草丈 (cm)	(5月20日)	19. 1	22. 6	△ 3. 5	22. 1	23. 6	△ 1. 5
	(6月20日)	75. 7	72. 9	2. 8	75. 8	72. 8	3. 0
茎数 (本/㎡)	(5月20日)	418	656	△ 238	397	636	△ 239
	(6月20日)	864	763	101	944	718	226
稈長 (cm) (7月20日)	90	93	△ 3	90	91	△ 1	
穂長 (cm) (7月20日)	8. 7	8. 5	0. 2	8. 1	8. 0	0. 1	
穂数 (本/㎡) (7月20日)	651	644	7	747	639	108	
子実重 (kg/10a)	513	521	△ 8	543	533	10	
同上平年比 (%)	98	100	△ 2	102	100	2	
ブラウエル容積重 (g)	833	828	5	826	830	△ 4	
千粒重 (g)	34. 3	39. 8	△ 5. 5	35. 8	41. 8	△ 6. 0	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、令和3年(最豊)、令和4年(最凶)を除く5か年の平均。



## 4) とうもろこし（サイレージ用）

作 況：やや不良

月日	作況	事由
11月20日	やや不良	<p>播種は平年より2日早い5月15日、出芽期は平年より7日早い5月29日であった。6月以降は高温で推移したことから生育ステージが早く進み、開花期および抽糸期は平年より12日および10日早かった。8月以降も平年並からやや高温で推移し、登熟が非常に早く進んだ。収穫期は平年より16日早い9月10日であり、収穫時の熟度は黄熟初期で平年並であったものの、稈長は平年より39cm低かった。総体の乾物率は2.3ポイント高く、乾物総量および推定TDN収量は平年比92%および94%とやや少なかった。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。</p>

## 生育データ

調査項目		KD320		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.15	5.17	△ 2
出芽期	(月.日)	5.29	6.05	△ 7
開花期	(月.日)	7.21	8.02	△ 12
抽糸期	(月.日)	7.22	8.01	△ 10
収穫期	(月.日)	9.10	9.26	△ 16
収穫時の熟度		黄熟初期	黄熟初期～ 黄熟中期	-
草丈(cm)	(6月20日)	40	29	11
	(7月20日)	225	179	46
	(8月20日)	250	281	△ 31
稈長(cm)	(9月20日)*	213	252	△ 39
葉数(枚)	(6月20日)	6.1	4.7	1.4
	(7月20日)	14.0	12.6	1.4
	(8月20日)	15.7	15.2	0.5
生総重(kg/10a)		5429	6467	△ 1038
乾物茎葉重(kg/10a)		757	954	△ 197
乾物雌穂重(kg/10a)		1090	1063	27
乾物総量(kg/10a)		1847	2017	△ 170
同上平年比 (%)		92	100	△ 8
推定TDN収量(kg/10a)		1367	1459	△ 92
同上平年比 (%)		94	100	△ 6
総体の乾物率 (%)		34.0	31.7	2.3
乾雌穂重割合 (%)		59.0	52.8	6.2
有効雌穂割合 (%)		100	100	0.0

注1) 平年値は前7か年中、平成30年（最凶）および令和3年（最豊）を除く5か年の平均。

注2) 推定TDN収量＝乾物茎葉重×0.582＋乾物雌穂重×0.850。

注3) 乾物収量や割合に関する一部の項目は、小数点以下の四捨五入などの計算方法により、表中の数値をもとに計算しても一致しない場合がある。

注4) 本年は9月5日に稈長の調査を実施した。

## 5) 大豆

作 況：良

月日	作況	事由
11月20日	良	<p>播種は平年並の5月21日に行い、播種後はやや低温で経過したため、出芽期は平年より2日遅い6月7日であった。出芽後は気温が平年より高く経過し、生育が順調に進んだ結果、開花始は平年より10日早い7月7日、成熟期は平年より7日早い9月12日であった。成熟期の主茎長は平年よりも低いが、主茎節数、分枝数および一莢内粒数は平年並であった。着莢数は平年を上回り、百粒重はやや重かったため、子実重は平年比133%であった。屑粒率は平年よりも低く、外観品質は平年並であった。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「良」である。</p>

## 生育データ

品種名		ユキホマレ		
調査項目		本年	平年	比較
播種期	(月. 日)	5. 21	5. 21	0
出芽期	(月. 日)	6. 07	6. 05	2
開花始	(月. 日)	7. 07	7. 17	△ 10
成熟期	(月. 日)	9. 12	9. 19	△ 7
主茎長 (cm)	(6月20日)	10. 4	9. 4	1. 0
	(7月20日)	48. 0	50. 6	△ 2. 6
	(8月20日)	50. 3	61. 3	△ 11. 0
	(9月20日)	50. 0	63. 7	△ 13. 7
	(成熟期)	50. 0	63. 1	△ 13. 1
本葉 数(枚)	(6月20日)	1. 5	1. 2	0. 3
	(7月20日)	8. 0	7. 7	0. 3
主茎節数	(8月20日)	10. 2	10. 1	0. 1
	(9月20日)	10. 1	10. 1	0. 0
	(成熟期)	10. 1	10. 0	0. 1
分枝数 (本/株)	(7月20日)	5. 8	4. 9	0. 9
	(8月20日)	6. 0	5. 7	0. 3
	(9月20日)	5. 1	5. 3	△ 0. 2
	(成熟期)	5. 1	5. 1	0. 0
着莢数 (個/株)	(8月20日)	94. 9	82. 5	12. 4
	(9月20日)	87. 0	76. 7	10. 3
	(成熟期)	87. 0	77. 2	9. 8
一莢内粒数		1. 88	1. 91	△ 0. 03
子実重(kg/10a)		490	369	121
同上平年比 (%)		133	100	
百粒重 (g)		34. 0	32. 6	1. 4
屑粒率 (%)		0. 4	1. 6	△ 1. 2
品質 (検査等級)		2中	2中	—

注1) 平年値は前7か年中、平成30年(最凶)、令和5年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが2cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

## 6) 小豆

作 況：良

月日	作況	事由
11月20日	良	<p>播種は平年並の5月21日に行い、播種後は低温で経過したため、出芽期は平年より1日遅い6月11日であった。出芽後は気温が平年より高く経過し、生育が順調に進んだ結果、開花始は平年より7日早い7月16～17日、成熟期は「エリモショウズ」では平年より15日早い9月10日、「きたろまん」では11日早い9月12日であった。いずれの品種も、成熟期の分枝数は平年並であるが、主茎長および主茎節数は平年を大きく上回った。いずれの品種も、百粒重は平年並で、着莢数および一莢内粒数は平年を上回ったため、子実重は「エリモショウズ」では平年比123%、「きたろまん」では平年比134%であった。いずれの品種も外観品質は平年並で、屑粒率は平年よりも低かった。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「良」である。</p>

## 生育データ

調査項目		エリモショウズ			きたろまん		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月・日)		5.21	5.21	0	5.21	5.21	0
出芽期 (月・日)		6.11	6.10	1	6.11	6.10	1
開花始 (月・日)		7.17	7.24	△ 7	7.16	7.23	△ 7
成熟期 (月・日)		9.10	9.25	△ 15	9.12	9.23	△ 11
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.5	3.4	0.1	3.6	3.3	0.3
	(7月20日)	24.3	17.5	6.8	24.0	17.1	6.9
	(8月20日)	91.4	64.5	26.9	117.6	67.8	49.8
	(9月20日)	96.7	71.5	25.2	126.0	76.2	49.8
	(成熟期)	96.7	71.0	25.7	126.0	74.7	51.3
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.6	0.4	0.2	0.6	0.5	0.1
	(7月20日)	9.5	6.4	3.1	9.0	6.2	2.8
主茎節数	(8月20日)	19.6	14.5	5.1	19.6	13.9	5.7
	(9月20日)	18.9	14.9	4.0	19.6	14.2	5.4
	(成熟期)	18.9	14.9	4.0	19.6	14.2	5.4
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.6	2.5	2.1	3.6	2.0	1.6
	(8月20日)	5.3	4.0	1.3	3.8	3.0	0.8
	(9月20日)	4.4	4.3	0.1	3.4	3.2	0.2
	(成熟期)	4.4	4.2	0.2	3.4	3.3	0.1
着莢数 (個/株)	(8月20日)	85.3	45.7	39.6	67.0	42.5	24.5
	(9月20日)	62.7	55.8	6.9	59.0	52.6	6.4
	(成熟期)	62.7	57.8	4.9	59.0	54.5	4.5
一莢内粒数		6.88	6.26	0.62	7.33	6.19	1.14
子実重(kg/10a)		474	386	88	520	388	132
同上平年比 (%)		123	100		134	100	
百粒重 (g)		14.4	14.6	△ 0.2	17.3	16.5	0.8
屑粒率 (%)		4.9	9.1	△ 4.2	4.2	8.0	△ 3.8
品質 (検査等級)		4 上	4 上	—	4 上	4 上	—

注1) 平年値は前7か年中、令和元年(最豊)、令和5年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 8月の着莢数は、莢の長さが3cm以上のものを示す。

3) 子実重は水分15%換算。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 7) 菜豆

作 況：不良

月日	作況	事由
11月20日	不良	<p>播種は平年より1日遅い5月21日に行い、播種後はやや低温で経過したため、出芽期は平年より3日遅い6月7日であった。出芽後は気温が平年より高く経過し、生育が順調に進んだため、開花始は平年より6日早い7月1日、成熟期は平年より12日早い8月16日であった。成熟期の草丈、主茎節数および分枝数は平年並であるが、着莢数および一莢内粒数は平年を下回り、百粒重も軽かったため、子実重は平年比49%であった。生育期の高温による未熟粒（直径7.9mmのふるいを通過する小粒）、および成熟期前後の降雨による変色粒（色流れ粒）がいずれ也多発したため、屑粒率は平年よりも高く、外観品質は平年よりもやや劣った。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「不良」である。</p>

## 生育データ

調査項目		大正金時		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.21	5.21	0
出芽期	(月.日)	6.07	6.04	3
開花始	(月.日)	7.01	7.07	△ 6
成熟期	(月.日)	8.16	8.28	△ 12
草丈 (cm)	(6月20日)	9.7	10.8	△ 1.1
	(7月20日)	39.0	39.7	△ 0.7
	(8月20日)	40.3	40.5	△ 0.2
	(成熟期)	40.3	40.4	△ 0.1
本葉数 (枚)	(6月20日)	1.7	1.3	0.4
	(7月20日)	3.3	3.8	△ 0.5
主茎節数	(8月20日)	5.3	5.4	△ 0.1
	(成熟期)	5.3	5.4	△ 0.1
分枝数 (本/株)	(7月20日)	6.7	5.5	1.2
	(8月20日)	5.2	5.5	△ 0.3
	(成熟期)	5.2	5.6	△ 0.4
着莢数 (個/株)	(8月20日)	12.9	21.5	△ 8.6
	(成熟期)	12.9	21.0	△ 8.1
一莢内粒数		2.34	2.79	△ 0.45
子実重(kg/10a)		146	298	△ 152
同上平年比(%)		49	100	△ 51
百粒重(g)		51.7	61.4	△ 9.7
屑粒率(%)		44.5	14.0	30.5
品質(検査等級)		4中	4上	—

注1) 平年値は前7か年中、令和3年(最凶)、令和4年(最豊)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

## 8) ばれいしょ 作 況：良

月日	作況	事由
11月20日	良	<p>植え付けは平年よりも2日早い、5月9日に行った。浴光催芽期間中の4月下旬～5月上旬にかけて平均気温が低温で経過したため、萌芽期は「男爵薯」が平年並、「コナユタカ」が平年より2日遅かった。萌芽以降、気温が平年より高く推移しており、開花始は平年比で「男爵薯」で2日、「コナユタカ」で5日早かった。6月下旬以降、降水量が極端に少なかったことと高温が影響し茎葉の生育は停滞していたが、7月下旬の降水量が多かったことで生育が進み、両品種ともに茎長は平年よりやや長かった。</p> <p>「男爵薯」の枯ちよう期は平年よりも7日遅かった。上いも平均重は平年よりも19g軽く、でん粉価も平年より1.3ポイント低かったが、上いも数が平年より多く、上いも重は平年比119%で多収であった。</p> <p>「コナユタカ」の枯ちよう期は平年よりも10日以上遅く、10月20日時点の枯ちよう度は50%で枯ちよう期に達しなかった。上いも数はやや多く、上いも平均重は平年より19g重く、でん粉価は2.0ポイント高かったことで上いも重は平年比124%、でん粉重は平年比136%で多収であった。枯ちようが遅れたことに加え9月下旬から10月上旬まで平均気温がやや高く、日照時間もやや多かったことが多収の一因としてあげられるが、全容は不明であった。</p> <p>以上のことから、「男爵薯」と「コナユタカ」の収量を鑑み、本年の作況は「良」である。</p>

## 生育データ

調査項目		男爵薯			コナユタカ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植付期	(月. 日)	5. 09	5. 11	△ 2	5. 09	5. 11	△ 2
萌芽期	(月. 日)	5. 28	5. 28	0	6. 01	5. 30	2
開花始	(月. 日)	6. 24	6. 26	△ 2	6. 26	7. 01	△ 5
枯ちよう期	(月. 日)	9. 06	8. 30	7	未達	10. 10	－
茎長 (cm)	(6月20日)	28	21	7	16	13	3
	(7月20日)	64	55	9	71	80	△ 9
	(8月20日)	70	56	14	124	100	24
茎数(本/株)	(6月20日)	4. 4	3. 4	1. 0	2. 2	2. 1	0. 1
	(7月20日)	5. 2	4. 6	0. 6	2. 3	2. 7	△ 0. 4
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	5831	5305	526	4405	4148	257
	(9月20日)	6449	5435	1014	5526	5764	△ 238
でん粉価(%)	(8月20日)	13. 7	15. 3	△ 1. 6	16. 5	19. 0	△ 2. 5
	(9月20日)	13. 5	14. 8	△ 1. 3	18. 0	21. 0	△ 3. 0
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	－	－	－	942	1136	△ 194
上いも数(個/株)		15. 7	11. 2	4. 5	8. 6	7. 8	0. 8
上いも平均重(g)		92	111	△ 19	210	191	19
上いも重(kg/10a)		6449	5435	1014	8019	6486	1533
同上平年比(%)		119	100	19	124	100	24
でん粉価(%)		13. 5	14. 8	△ 1. 3	23. 2	21. 2	2. 0
でん粉重(kg/10a)		－	－	－	1773	1304	469
同上平年比(%)		－	－	－	136	100	36

注) 平年値は前7か年中、平成30年(最凶)、令和3年(最豊)を除く5か年の平均

## 9) てんさい

作 況：やや良

月日	作況	事由
11月20日	やや良	<p>移植栽培の播種は、平年より2日早い3月22日に行った。育苗期間後半は平年より気温が低かったため、苗の生育はやや不良であった。移植は平年より4日遅い5月7日に行った。土壌条件は適湿であったため、活着は非常に良好であった。その後、5月中旬の気温が極めて高かったため、草丈、生葉数、茎葉重ともに平年並となった。</p> <p>直播の播種は、平年より2日遅い5月7日に行った。直播の出芽期は、平年並みの5月15日だった。</p> <p>5月の中旬は降水量が少なく、5月下旬は気温がやや低かったものの、6月上旬以降は気温が平年並以上で、降水量が十分であったため、すべての項目でほぼ平年となった。</p> <p>6月下旬から7月上旬にかけては、気温が高く降水量が少なかったため、一時的に生育が抑えられたが、7月中旬の降雨で、特に根部の生育が進んだ。草丈、茎葉重は平年を下回ったものの、葉数、根重、根周は平年を上回っている。</p> <p>7月下旬から8月中旬は、気温が高く、降水量および日照時間が十分に得られたことから、生育が進み、ほぼ全ての項目で平年を上回った。</p> <p>8月下旬から9月中旬は、気温が平年並みで、降水量が多かったために生育が進み、草丈、生葉数、生葉重、根重、根周ともに、平年並から平年を上回った。一方、根中糖分は、7月から8月の高温の影響を受けて、平年を下回った。</p> <p>収穫は、平年並の10月20日に行った。</p> <p>9月下旬から10月中旬は気温が平年並で、9月下旬に降水量が多かったため、引き続き根部の肥大が進み、根重は平年並から平年を上回った。一方、根中糖分は、7月から8月の高温の影響が残り、平年を下回った。糖量は、移植の「アマホマレ」では平年を下回ったが、移植と直播の「ライエン」では平年を上回った。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「やや良」である。</p>

生育データ

調査項目		移植						直播		
		ライエン			アマホマレ			ライエン		
		本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	3.22	3.24	△ 2	3.22	3.24	△ 2	5.07	5.05	2
移植期	(月.日)	5.07	5.03	4	5.07	5.03	4	－	－	－
出芽期	(月.日)	－	－	－	－	－	－	5.15	5.15	0
収穫期	(月.日)	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0	10.20	10.20	0
草丈 (cm)	(5月20日)	6.4	6.9	△ 0.5	6.1	7.3	△ 1.2	－	－	－
	(6月20日)	24.0	21.7	2.3	25.2	23.7	1.5	19.6	15.4	4.2
	(7月20日)	47.9	52.4	△ 4.5	53.1	55.1	△ 2.0	45.7	51.4	△ 5.7
	(8月20日)	56.9	57.2	△ 0.3	66.6	62.3	4.3	60.4	58.9	1.5
	(9月20日)	58.4	58.1	0.3	71.0	65.1	5.9	63.8	61.2	2.6
生葉数 (枚)	(5月20日)	5.8	6.5	△ 0.7	4.5	5.3	△ 0.8	－	－	－
	(6月20日)	13.4	13.3	0.1	11.4	12.2	△ 0.8	10.9	9.4	1.5
	(7月20日)	23.1	21.8	1.3	21.9	21.4	0.5	22.7	20.4	2.3
	(8月20日)	30.0	27.9	2.1	29.0	26.1	2.9	30.6	25.9	4.7
	(9月20日)	35.4	30.3	5.1	29.0	27.9	1.1	30.5	29.2	1.3
茎葉重 (g/個体)	(5月20日)	1.1	1.3	△ 0.2	1.0	1.3	△ 0.4	－	－	－
	(6月20日)	73	60	13	63	67	△ 4	35	21	14
	(7月20日)	435	506	△ 71	458	571	△ 113	372	436	△ 64
	(8月20日)	808	805	3	970	888	82	791	747	44
	(9月20日)	898	750	148	1066	869	197	893	752	141
根重 (g/個体)	(6月20日)	16	15	1	14	18	△ 4	4	2	1
	(7月20日)	381	252	129	381	257	124	283	164	119
	(8月20日)	854	737	117	827	751	76	744	602	142
	(9月20日)	1177	992	185	1055	1016	39	1033	881	152
根周 (cm)	(7月20日)	26.5	23.0	3.5	25.3	22.7	2.6	23.3	19.8	3.5
	(8月20日)	35.5	34.1	1.4	34.4	32.5	1.9	33.8	31.4	2.4
	(9月20日)	40.3	38.2	2.1	37.1	37.2	△ 0.1	37.3	36.6	0.7
根中糖分 (%)	(9月20日)	14.91	16.61	△ 1.70	14.96	16.47	△ 1.51	15.67	16.71	△ 1.04
茎葉重(kg/10a)	(収穫期)	6740	5553	1187	7470	5967	1503	7050	5314	1736
根 重(kg/10a)	(収穫期)	8900	7677	1223	6980	7123	△ 143	7740	6702	1038
同上平年比 (%)		116	100	16	98	100	△ 2	115	100	15
根中糖分 (%)	(収穫期)	16.72	17.82	△ 1.10	17.32	18.25	△ 0.93	17.37	18.16	△ 0.79
同上平年比 (%)		94	100	△ 6	95	100	△ 5	96	100	△ 4
糖量(kg/10a)	(収穫期)	1487	1367	120	1208	1299	△ 91	1344	1213	131
同上平年比 (%)		109	100	9	93	100	△ 7	111	100	11

注1) 平年値は前7か年中、令和3年（最豊）令和5年（最凶）を除く5か年の平均。

10) 牧草（チモシー）

作 況：平年並

月日	作況	事由
11月20日	平年並	<p>1番草：萌芽期は平年より1日遅い4月17日で、冬損は認められなかった。平均気温は5月中旬および6月上・中旬が高温で推移した。1番草の出穂始および出穂期は、6月9日および6月13日でも平年と同日であった。収穫は平年より1日遅い6月16日に行い、乾物収量は平年比111%と多収であった。</p> <p>2番草：収穫は平年より1日遅い8月5日に行った。1番草収穫後から2番草収穫まで、平均気温は平年より極めて高く、降水量は7月下旬を除いて少なかったことから生育は停滞した。2番草の乾物収量は平年比41%と少なく、1番草と2番草の合計乾物収量は平年比91%でやや少なかった。</p> <p>3番草：収穫は平年より3日遅い10月6日に行った。2番草収穫後、平年に比べ平均気温はやや高く、降水量は多く、日照時間は並からやや多かった。再生が順調だったことから、3番草の乾物収量は平年比172%と多収であった。結果、1～3番草の合計乾物収量は平年比103%と平年並であった。</p> <p>以上のことから、本年の作況は「平年並」である。</p>

生育データ

品種名		なつちから		
調査項目		本年	平年	比較
萌芽期	(月. 日)	4. 17	4. 16	1
冬損程度		1. 0	1. 0	0
被度 (%)	(5月20日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月. 日)	6. 09	6. 09	0
出穂期	(月. 日)	6. 13	6. 13	0
出穂程度	1番草	7. 0	7. 0	0
節間伸長程度	2番草	2. 0	4. 4	△ 2. 4
収穫日 (月. 日)	1番草	6. 16	6. 15	1
	2番草	8. 05	8. 04	1
	3番草	10. 06	10. 03	3
倒伏程度	1番草	1. 0	1. 1	△ 0. 1
病害罹病程度	1番草	1. 0	1. 0	0. 0
	2番草	2. 0	2. 3	△ 0. 3
	3番草	2. 0	3. 1	△ 1. 1
草丈 (cm)	(5月20日)	50	43	7
	(6月5日)	79	77	2
	1番草	101	95	6
	2番草再生時	25	38	△ 13
	2番草	39	63	△ 24
	3番草再生時	53	36	17
	3番草	56	40	16
生草収量 (kg/10a)	1番草	2, 236	2, 362	△ 126
	2番草	384	793	△ 409
	1+2番草計	2, 620	3, 155	△ 535
	3番草	804	470	334
	合 計	3, 424	3, 625	△ 201
乾物率 (%)	1番草	26. 6	22. 6	4. 0
	2番草	23. 9	29. 5	△ 5. 6
	3番草	28. 9	29. 1	△ 0. 2
乾物収量 (kg/10a)	1番草	594	533	61
	同上平年比 (%)	111	100	11
	2番草	91	225	△ 134
	同上平年比 (%)	41	100	△ 59
	1+2番草計	687	758	△ 71
	同上平年比 (%)	91	100	△ 9
	3番草	232	135	97
	同上平年比 (%)	172	100	72
	合 計	919	893	26
	同上平年比 (%)	103	100	3

注1) 平年値は前7か年のうち令和5年（最凶）、令和6年（最豊）を除いた前5か年の平均。

注2) 冬損程度、倒伏程度および病害罹病程度は1:無または微～9:甚。病害は主に斑点病。

注3) 出穂程度および節間伸長程度は1:無～9:極多。